

ボラリス(北極星)を目指すには 北極星を見分けること。 目指すところ(方向)は一緒でも やり方はそれぞれ多種多様。 一人一人の思いをエッセイの形で 伝えたい。



## ~ णर्रिते हिर्मिटिण ~

検査部 臨床検査科 科長 野田 以登子

「ときめき鹿島」との出会いは創刊するにあたりタイトルを決めるところからでした。「心がときめく瞬間であってほしい」という思いを込めて「ときめき」と応募した記憶があります。2002年に創刊されてから22年間、「ときめき鹿島」が手元に届くたびに愛着のある「ときめき」にときめいています。

創刊号の編集後記には、小鯖元院長が「全くのゼロからの出発であり何度も泥沼に嵌りながら発刊にたどり着きました。話し合いを重ねるうちに委員会のメンバー同士の仲間意識がどんどん育まれていくのを感じることができました。この現象が今、この病院に最も必要なことだと思っています。こんな輪が全病院中に広がっていけばきっとすばらしい病院になるだろうという予感がします。」と記されていました。

私は毎年、入職者の方々に医療安全についてお話をさせていただいています。その中で「医療安全はコミュニケーションが最も重要です。鹿島病院は大病院にはない職員一人一人の顔の見える病院です。そして、コミュニケーションの基本は挨拶です。挨拶のあは明るく、心はいつも②は先に、②は伝える・・・挨拶で心を伝えましょう」とまさに「こんな輪」を病院中に広げていきたいと毎年毎年繰り返しお話しています。ですから、職員同士の「お疲れ様です」の声を聞くたびに嬉しくなります。

そんな私も入職してもうすぐ30年になりますが、入職当時は老人病院と呼ばれていた当院も、今や鹿島に行けば元気になって家に帰ることができると言われる病院となりました。これも坂之上院長はじめ職員の皆さん一人一人が「こんな輪」を広げてきてくださったからではないでしょうか。小鯖先生、予感は当たりましたね。

#### 松江赤十字病院 研修医 山中 香澄

地域医療研修として8月の1ヶ月間鹿島病院にて研修を させていただきました。

入院時カンファレンス、1ヶ月カンファレンスなど様々なカンファレンスに参加させていただきましたが、多職種が集まり患者さんの状況を多角的に評価し、次回のカンファレンスに向けて具体的な目標を共有することで、全体で患者さんをサポートする体制が整っていると感じました。また、普段は急性期病院で研修を行っているため慢性期病院





に転院となった患者さんのその後を見る機会はほとんどありませんが、リハビリや治療の継続で機能回復していく姿を間近で見ることができ貴重な経験となりました。訪問診療や訪問看護にも同行させていただき、地域医療の中で重要な役割を担っていると感じました。

先生方やスタッフの皆様には大変お世話になりました。この1ヶ月で学んだことを今後に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

### 松江赤十字病院 研修医 安藤 辰朗

2024年10月の1ヶ月間、鹿島病院で地域医療研修をさせていただきました。研修を通じて、地域住民の医療を担う慢性期病院の役割と重要性を改めて感じることが出来ました。

鹿島病院では患者様の入院前から入念な準備をし、入院時はすぐに多職種での介入が始まります。定期的なカンファレンスで病態やリハビリ状況、退院先などを多職種で繰り返し共有されていることが、地域医療を支える大きな軸になっていると感



じました。私自身としては、松江赤十字病院での担当患者様を、転院先の鹿島病院で引き続き担当させていただく機会があり、急性期の治療とは異なる視点で、回復に向けた計画や課題を考えることが出来たことが印象に残っています。

開放的なリハビリ室での関わりや、病棟ホールで開催されたカフェイベントなど、病室



以外で入院患者様と接する機会も多く、貴重な経験となりました。また往診や訪問看護、居宅支援訪問、施設外リハビリにも同行させていただき、地域住民に寄り添った医療を体感することが出来ました。

この1ヶ月間で様々な経験を得ることが出来ました。先生方を始め、携わっていただいたスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。お世話になりました。



## 令和6年度 「中学生・高校生の1日看護体験」

当院の特色の一つである特殊疾患病棟で人工呼吸器関連の 体験をおこないました。

参加者人数は中学生1名、高校生3名でした。









6 車椅子体験

患者さんと職員さんの距離 が近くて家族のような関係 が良いなと思ったの 様々な 症状の患者さん一人ひとり にあった食事の仕方やナース コールの方法が考えられてい てすざいと思ったの(高2)





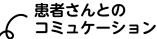
実際に患者さんの体を拭いたり、自分自身が呼吸器などを体験す ることで、患者さんの気持ちを理解し、よりそうことができたの慢性 期医療に関わり、老年看護に興味を持つとともに、患者さんに寄り 添う看護師に魅力を感じ、看護に対する視野が広がったの(高3)

人工呼吸器の体験



人工呼吸器 の体験をし て患者さん の大変さが わかり、頑 張ってほし いと思ったの (中1)

普段できない貴重な体験が できて看護師という職業に 今まで以上に興味を持つこ とができたの(高2)





# 地域連携室便り 84

## 松江市の2つの冊子

医療相談部 社会福祉士 小林 裕恵

今回は、松江市の発行している2つの冊子を紹介したいと思います。1つは『松江市くらしの便利帳』です。この冊子には、行政への届け出からゴミの出し方まで、さまざまなことが記載されていて、市民生活にかかわる情報が網羅されています。冊子は各戸配布されていますので、利用されている方も多いと思います。インターネットで見ることもできます。

この冊子の高齢者福祉のページを見ますと、各公民館区を担当する「地域包括支援センター」の所在地や電話番号が掲載されています。鹿島病院に入院されている患者さんやご家族の方については、私たち医療相談員が、要介護認定の方法、退院後に入所可能な施設、自宅で受けられる介護サービスなどを説明し、支援につなげていきますが、入院されていない方についてはそうはいきません。そういう場合、この地域包括支援センターに問い合わせるのがいいと思います。





今回紹介する2つめの冊子は『私の思いを つなぐノート』です。これは「終活支援ノート」あるいは「エンディング・ノート」とい われるもので、高齢の方々の終活に向けての 準備を支援するものになっています。エン ディングノートは、最近、さまざまな自治体 で発行されつつあります。

目次は、第1章「わたしのこと」、第2章「元気に過ごすために」、第3章「もしものときは」、第4章「大切な人たち」、第5章「財産について」、第6章「エンディング」、終章「相続・手続き先」となっており、緊急の連絡先、延命治療の希望、相続にかかわることなど、人生の終わりに向けて、必要な情報を自分で記すようになっています。こういったエンディングノートの登場が意味するのは「人はいつかは死ぬものだ、それは自然の摂理だ、それをしっかり見つめよう」という人びとの意識の表れかもしれません。

高齢者の医療・介護や終活に向けての情報を得ることは、患者さんやご家族の将来への不安の解消につながります。しかし、寂しさの解消につながることはあまりないでしょう。人との現実的な触れ合いだけが寂しさを解消する薬だからです。私たち医療相談員は患者さんと医療縁ともいえる縁を築き、温かい触れ合いの中で患者さんやご家族をお支えしたいと思っています。

## カラフル大輪町**との** 意見交換会を通して

在宅サービス部 やまゆり居宅介護支援事業所 所長 濱崎 貴仁

この度、社会福祉法人豊心会 カラフル大輪町にあるカラフルデイサービス、居宅支援事業所カラフルケアプランセンターの皆様と意見交換会及び施設見学を行いました。その中で、双方、共通して職員の人材不足によるマンパワー不足という課題があり、提供したいサービス内容、ニーズに十分応えることが出来ているのかという悩みを抱えている事が分かりました。意見交換会の中では業務の効



率化を図っていくこということを目指していますが、いかにサービスの質を下げずに取り組んでいくか、お互いの工夫している事を出し合いました。

鹿島病院ではセラピストが限られた時間の中でも個別に関わる時間を大切にしており、利用者様の満足度向上に繋がっています。その反面、業務に追われ、「忙しそう、バタバタしている」という声も少なくありません。

カラフルデイサービスでは利用者様の細かなニーズに沿ったサービス提供、送迎時間、入浴サービスが午前に終わらない場合は午後にも行うなど臨機応変に対応、施設設備を最大限に工夫し効率的に行っている事が伺えました。又、カラフルケアプランセンターではICTの活用が工夫されており、記録やプラン作成の業務の効率化が進んでいることで業務負担が軽減につながり、その結果、利用者様と関わる時間が増え、サービスの質の向上に繋がっています。

意見交換会後、早速、事業所に持ち帰り他のスタッフへ報告会を開催し、少しずつ、私たちが出来ることから始めていました。

今回、一番強く感じたことは自分たちだけでは目の前にある課題を解決することが難しく、 手と手を取り合って地域一体となって取り組んでいくことがとても重要であり、この意見交換会が一歩目であると感じています。

私たち在宅サービス部はこれからも地域の利用者様へ「より良い在宅支援」を目指すために、地域一体で取り組んでいきたいと思います。



## **喜井**認知症看護認定看護師の認知症あれこれ

## 認知症の人が生きている世界



認知症看護認定看護師 喜井 亜祐子

- 今回は【認知症世界の歩き方】という本をご紹介したいと思います。この本は認知症の 人の語りをもとに、実際に経験している出来事をわかりやすい表現で楽しく学べるように なっています。
- みなさんはカクテルパーティー効果という言葉を知っていますか?騒がしいパーティーのような環境でも、不思議と自分が会話している相手の声を聞き取ることができます。これをカクテルパーティー効果といい、自分に必要な情報に対して選択的に注意を向ける、認知機能の一つと言われています。私たちの脳は五感(視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)
- から入ってくる大量の情報の中から、注意するものと注意しないものを選択・切替しています。これを『注意』と言います。この本の中に『認知症世界には聞きたくもないのに、
- 人の会話が耳に飛び込み、気になって仕方がなくなってしまうカクテルバーがある』と書かれています。認知症の人の言葉として「他人のヒソヒソ話を遮ることができない」と書いてあります。認知症によって注意機能が低下している場合、聞きたくもないのに様々な
  - 音が耳に飛び込んできて、大事なことを聞き逃してしまったり、話しかけられても会話の 内容をうまく処理できないのは仕方がないことかもしれません。
    - ○この障害が原因と考えられる生活の困りごと
      - ・駅のアナウンスが聞こえない
      - ・予約の日付を間違える
      - ・運転中、信号や標識などに気がつかないなど。
  - 病棟はモニターやナースコールなどの機械音、職員の話し声など様々な音で溢れています。そのような環境の中で認知症の人が安心して生活するためにはどのようにしたら良いでしょうか。コミュニケーションを図る上で重要なのは自分に注意を向けてもらえるような工夫をすることです。やみくもに大きな声を出して注意を引くのではなく、その人の見えている範囲、聞こえる範囲を把握して、自分がそこに入り、ゆっくり優しく笑顔で話しかけることが大切です。
  - この本では他にも認知症の人の語りをもとに書かれたストーリーがいくつも紹介されています。興味がある方はぜひ読んでみてください。

著者: 筧裕介 発行所: 株式会社ライツ社 発行: 2021.9.21



## 通所リハビリやまゆり フロア活動

通所リハビリやまゆりでは、リハビリ以外の時間も楽しく過ごしていただくために、フロア活動として、創作活動、日々のレクレーション、季節毎のお楽しみ会などにも力を入れております。



指先や頭のリハ ビリにもなって ます。











テーブルホッケー、的入れなど職員が趣向を凝らして企画しています。



もぐら叩き、金魚すく い、射的などなつかし のゲームで盛り上がり ました。



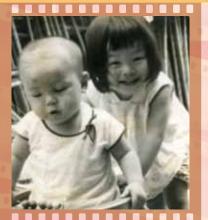


今後も利用者さまの満足度向上を目指し、さまざまな活動を提供していきたいと思います。

問題

この人はだぁれ?

答えは9ページ







## クリニカル・インディケータ

病院全体

[ 病床利用率(%) = 24時現在の患者数 ×100 1 病床数

## (R6年1月~R6年7

#### 病床利用率 1

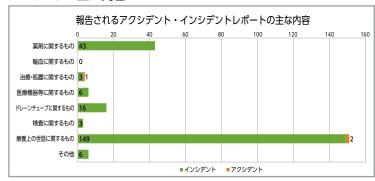
#### 1月 2月 平均 3月 4月 5月 6月 特殊疾患病棟 97.2% | 95.5% | 99.3% 98.3% 96.8% 95.7% 97.2% 83.9% 91.9% 回復期リハ病棟 94.5% | 92.6% | 94.2% 86.3% 90.5% 92.6% | 83.8% | 82.2% | 83.2% | 88.5% 療養病棟 84.9% | 86.6% | 地域包括ケア病棟 81.7% | 91.5% | 79.5% | 95.1% | 97.6% | 93.4% | 86.7%

### 平均在院日数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
特殊疾患病棟	662⊟	550⊟	588⊟	622⊟	985⊟	963⊟
回復期リハ病棟	79⊟	80⊟	80⊟	82⊟	80⊟	89⊟
療養病棟	147⊟	139⊟	144⊟	227⊟	236⊟	146⊟
地域包括ケア病棟	40⊟	42⊟	41⊟	38⊟	36⊟	40⊟

#### 医療安全管理 報告されるアクシデント・インシデントレポートの主な内容

	アクシデント		アクシ	デント
	件数	割合	件数	割合
薬剤に関するもの	0件	0.0%	43件	19.0%
輸血に関するもの	0件	0.0%	0件	0.0%
治療・処置に関するもの	1件	33.3%	3件	1.3%
医療機器等に関するもの	0件	0.0%	6件	2.7%
ドレーンチューブに関するもの	0件	0.0%	16件	7.1%
検査に関するもの	0件	0.0%	3件	1.3%
療養上の世話に関するもの	2件	66.7%	149件	65.9%
その他	0件	0.0%	6件	2.7%
計	3件	100.0%	226件	100.0%



### 病棟機能

#### 回復期リハビリテーション病棟 【疾患別平均入院日数】

疾患別	疾患別延 入院日数	疾患別 患者数	疾患別 平均入院日数
骨折、損傷等	5,025⊟	70人	71.8⊟
脳血管疾患等	3,559⊟	35人	101.7⊟
脊椎、脊髄の疾患	366⊟	5人	73.2⊟
股関節または膝関節の置換術後	46⊟	1人	46.0⊟
廃用症候群	179⊟	2人	89.5⊟
義肢装具訓練を要する状態	0⊟	0人	0.0⊟
総計	9,175⊟	113人	81.2⊟

#### 2 療養病棟 【在宅復帰率】

※療養病棟の在宅復帰率に基づいて算出

療養病棟の在宅復帰率	83.5%
分子:療養病棟から在宅 (自宅・居住系施設) へ退院した患者数	76人
分母:療養病用を退院した患者数	91人

#### 【FIM運動改善状況】 ※回復期リハ実績指数対象者

	実施前(平均)	退院(棟)時(平均)	変化値(平均)
脳血管障害に関するもの	41.7	68.9	27.2
廃用症候群に関するもの	28.5	75.0	46.5
運動器疾患に関するもの	32.2	73.4	41.3

21.6

31.0

24.1

## 3 地域包括ケア病棟 【疾患別平均入院日数】

医 医别	疾患別延入院日数	疾患別患者数	疾患別半均入院日数
A·B·U感染症	0 🗆	0人	0.0
Cがん	485⊟	14人	34.6⊟
E脱水症等	183⊟	5人	36.6⊟
G神経疾患	63⊟	2人	31.5⊟
脳血管疾患、心疾患	787⊟	17人	46.3⊟
J肺炎等	504⊟	14人	36.0⊟
K消化器疾患	192⊟	4人	48.0⊟
L褥瘡	85⊟	3人	28.3⊟
M廃用症候群等	1,790⊟	41人	43.7⊟
N尿路感染症等	217⊟	5人	43.4⊟
S·T 骨折、損傷等	804⊟	20人	40.2⊟
総計	5,110⊟	125人	40.9⊟

### 運動器疾患に関するもの 【在宅復帰率】

【FIM認知改善状況】

脳血管障害に関するもの

廃用症候群に関するもの

※同復期日	ハ病棟の左空復帰家に其づいて	- 笛山

実施前(平均) | 退院(棟)時(平均) | 変化値(平均)

※回復期リハ実績指数対象者

25.2

33.0

27.9

在宅復帰率	93.4%
分子:回復期リハ病棟から在宅 (自宅・居住系施設)へ退院した患者数	100人
分母:回復期リハ病棟から退院した患者数	107人

### 【在宅復帰率】 ※地域包括ケア病棟の在宅復帰率に基づいて算出

在宅復帰率	83.8%
分子:地域包括ケア病棟から在宅 (自宅・居住系施設)へ退院した患者数	83人
分母:地域包括ケア病棟から退院した患者数	99人

#### 在宅機能 $\mathbf{III}$

3.7

2.0

3.8

#### 通所リハビリテーション 【当院退院患者の通所リハビリ利用後のFIM改善状況】

#### 【在宅からの紹介による入院件数】



	脳血管障害に関するもの	廃用症候群に関するもの	運動器疾患に関するもの	呼吸器疾患に関するもの	全体
退院時(n)	9	1	17	0	27
退院時(平均)	86.8	83.0	98.5	-	94.0
2週間(n)	8	0	15	-	23
2週間(平均)	86.3	-	93.5	-	91.0
2週間変化値(平均)	1.6	-	-4.6	-	-2.4
3か月(n)	7	-	12	-	19
3か月(平均)	84.3	-	94.6	-	90.8
3か月変化値(平均)	2.4	-	-1.3	-	0.1

	在宅からの 入院	当院外来(再掲)	病院・老健からの入院	在宅からの 入院割合 (%)
2F病棟	2件	1件	9件	18.1%
3F回復	10件	1件	101件	9.0%
4F病棟	6件	1件	14件	30.0%
4F地域	35件	10件	91件	27.7%
計	53件	13件	215件	19.7%

## 人事のお知らせ

# NEWS

#### ①部署・職種 ②趣味・特技は何ですか?

- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします。

## 新入職員を

## 紹介しま

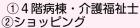
50音順



#### 小池 花子

- ①リハビリテーション科 言語聴覚士
- ②マンガを読むこと
- ③ドッチボール観戦 ④一日も早く業務に慣れ、患 者様・ご家族様に貢献で きるよう頑張ります。 よろしくお願い します。

#### 和沙 佳代



- ③パスタ
- ④病棟での勤務は久しぶりなの で一日でも早く仕事に慣れ 患者様に寄り添ったケア ができるよう頑張りま す。よろしくお願い します。



### 昇進

在宅サービス部居宅介護支援事業所所長 在宅サービス部訪問看護係長(正規職員登用) 在宅サービス部訪問看護主任 看護部看護課主任

濱崎 貴仁(在宅サービス部居宅介護支援事業所所長代理) 寺本美智子(在宅サービス部訪問看護) 高橋 恭子(在宅サービス部訪問看護) 高田由紀子(看護部看護課)

## 公仁会事業報告(R6年7月~R6年9月)

延へ入院患者数=24時現在入院 延べ外来患者数=外来実日数

#### **鹿島病院** ①外来

(診療日数64日)		1日平均患者数
延べ外来患者数	911人	14.2人/日

#### ②病棟 2F特殊疾患病棟

(診療日数92日)		1日平均患者数	
延べ入	院患者数	5,340人	58.0人/日
レスピレ-	-ター装着延べ患者数	1,565人	17.0人/日
	<ul><li>一脊髄損傷等の重度障害</li></ul>	644人	7.0人/日
特殊疾患 対象延べ	②重度意識障害	2,044人	22.2人/日
患者者数	③神経難病	1,824人	19.8人/日
	④筋ジストロフィー	0人	0.0人/日

3か月間の特殊疾患対象患者割合 84.7%

3か月間の特殊疾患対象患者割合=1日平均対象患者数・1日平均入院患者数

#### 3F回復期リハ病棟

(診療日数92日)		1日平均患者数
延べ入院患者数	4,616人	50.1人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	99.4%	
平均リハ提供単位数	5.9	

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	95人	64.2%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		88.4%	
直近6か月間の重症改善率		79.6%	
直近らか日間のアウトカル宇結指数		18.	 7占

#### 4F療養病棟

(診療日数92日)		1日平均患者数
延べ入院患者数	2,289人	24.8人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	85.4%	
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合=レセプト実績日数		
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合(4F全体)	78.	7%

#### 4F地域包括ケア病床

(診療日数92日)		1 日平均患者数
延べ入院患者数	2,624人	28.5人/日
A·C項目患者の割合	17.3%	
平均リハ提供単位数	2.4	
直近3か月間の自宅等から入院した患者の割合	28.3%	
直近3か月間の自宅等からの緊急入院受入れ数	16人	
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	85.8%	

#### 鹿島病院短期入所

(診療日数92日)		1日平均利用者数
ショートステイ延利用者数		0.0人/日
ショートステイ延利用者数=レセプト実績日数		

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

### 在宅サービス部

①通所リハビリ"やまゆり"

(稼働日数77日)		1日平均利用者数	
通所リハビリ延利用者数	2,809人	36.5人/日	
短期集中リハビリ実施数	1,436単位	18.6単位/日	

#### ②訪問リハビリ"つばさ"

(稼働日数60日)		1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	39人	0.7人/日
訪問リハビリ延べ単位数	78単位	1.3単位/日

#### ③訪問看護"いつくしみ"

(稼働日数60日)		1日平均利用者数	
訪問看護延利用者数(医療)	271人	4.5人/日	
訪問看護延利用者数(介護)	542人	9.0人/日	
訪問看護延利用者数(リハビリ)	196人	3.3人/日	

#### ④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数60日)		月平均策定数
延べケアプラン策定数	308人	102.7人/月
延べ介護予防ケアプラン数	174人	58.0人/月



この人はだぁれ? 正解は 川谷清美看護部長でした!



#### $\triangleright$

## 医療法人財団公仁会中期ビジョン2022

### 医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめと する医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

#### <ビジョン策定の主旨>

橋北地域における地域包括ケアシステムの中核病院として、 入院・外来医療と介護サービスの質の向上と継続的提供のため 中期ビジョンを策定する。

#### <本計画の期間>

この計画は2022年4月から2025年3月までの3年間を期間とする。

#### 1. 良質な回復期・慢性期医療

#### (1)回復期医療

回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病床でのリハビリテーションのさらなる充実と、外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリとの密な連携により、地域の回復期医療を担っていく。

#### (2)慢性期医療

特殊疾患病棟・医療療養病床で長期入院を要する患者に対応し、地域包括ケア病床で高齢患者に準急性期医療を提供することで地域の慢性期医療を担う。

#### (3)質の高いリハビリテーション

リハビリ療法士の数的充足のみではなく個々の療法士の 質的向上を図り、医療機関との交流を図る。

#### (4)外来・訪問診療

訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で外来診療・訪問診療を一層効果的に運営する。

#### 2. 在宅生活を支える医療・介護

#### (1)良質な在宅医療

患者にとって「安心を支える在宅医療」を促進するため、 外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事 業所との連携を一層進める。

#### (2)良質な在宅支援サービス

外来部門、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ならびに通所リハ、外来リハ、訪問リハが質・量ともに向上し、リハビリテーションを柱とした質の高い医療・看護を提供する。

#### 3. 地域連携 及び 地域貢献

#### (1)病病連携、病診連携、地域(行政(県・市・保健・ 福祉・介護)、地区)連携

新型コロナウイルスによるパンデミックにより交流会など顔の見える連携の会が開催できていない状況であるが、パンデミックが収まれば早急に意見交換会などを開催する。

#### (2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種に対しての勉強会等を通じて、地域に積極的に知識を還元していく。

#### (3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い公仁会のブランド力を高める。

#### 4. 医療安全・院内感染対策

#### (1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

#### (2)院内感染対策

院内感染が起こってからの対策のみならず「発生しないための対策」「予防策をいかに取るべきか」院内感染防止対策委員会の活動だけでなく日頃からの予防教育を継続する。

#### 5. 医療サービスの質の改善

#### (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動

2020年に日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価3rdGV2.0を更新受審した。この結果を踏まえ診療行為の更なる向上を図る。

#### (2) 臨床指標 (Clinical Indicator) の活用

診療報酬体系がストラクチャー評価からアウトカム評価 重視へ移行する過渡期の中で、当院のアウトカムである在 宅患者受入れ率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、 医療看護必要度、訪問診療回数などを院内外に積極的に発 信していく。

#### (3)患者満足度向上の組織的取組み

継続的なアンケート調査を行い患者ニーズの把握に各部 署務め、満足度向上のため継続的に努力する。

#### (4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

#### 6. 人材の確保と育成

#### (1)人材の確保

良質な医療・介護をより向上させる為、必要人材を適時 適切に確保する。

#### (2)人材の育成

新型コロナウイルスのパンデミックにより停滞した、研修会、研究会を計画的かつ積極的に行い、各人の一層のレベルアップを行う。

#### (3)働きやすい環境の整備

働きやすい環境を作り、離職防止の取組、キャリアアップサポート、福利厚生事業の充実など、魅力ある職場づくりを行う。

#### (4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やすような取組みを引き続き行う。

#### 7.OAを活用した業務の見直し

OAを活用し無理無駄のない業務へと見直し、省力化の一層の 促進に取組む。

## 編集後記

10月に入っても季節はずれの暑い日が続いたかと思えば、また急に寒くなったり寒暖差への対応が難しい状況です。十分な睡眠をとる、適度な運



動を心がける、バランスのよい食事をとる、感染対策をする、ストレスをためないように工夫して体調管理に努めましよう。「ときめき鹿島」は今年最後の発行になります。今年も広報委員会の活動にご協力いただきありがとうございました。

広報委員会

#### ■編集・発行・責任者:広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1 e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/ 鹿島病院 TEL(0852)82-2627代 FAX(0852)82-9221

即刷元 柏村印刷株式会社